

NPO法人 子育て応援ナビぽっかぽか

# ぽっかぽか通信

プラス



第30号 平成27年4月16日 発行

出張ひろば・ぽっかぽかプラス

〒710-0813 倉敷市寿町9-2

TEL (086)441-5660 <木・10:00-15:00>

5月7日(木)

5月21日(木)

10時から15時まで 10時から15時まで

きくちゃん

5月14日(木)

5月28日(木)

10時から15時まで 10時から15時まで

## ★端午の節句ですね★

本来、端午(たんご)とは月の始めの午(うま)の日をいいますが、旧暦5月5日(現在は新暦5月5日)を端午というように変わりました。

古代中国では、この日を薬採りの日としていて、薬草を摘んで野遊びをしました。菖蒲は、煎じて飲んだりして昔から薬草として使われていたそうです。

男の子の節句とされるまでは、厄病を祓う節句で「菖蒲の節句」とも呼ばれていたそうです。5月は悪月(あくげつ)、物忌みの月とされ、その邪気を祓うために菖蒲を浸した酒を飲んだり、よもぎを軒につるしてちまきを食べたりしたそうです。

平安時代は宮中の儀式でしたが、江戸時代になって、3月3日の女の子の節句と対応させて、菖蒲が尚武と同じ音であることから男の子の節句になり、江戸幕府の公式行事となりました。

端午の節句に柏餅を食べるようになったのは、男の子の節句として祝うようになってからです。

柏の葉は、新芽が出ないと古い葉が落ちないため、家系が途絶えないという縁起かつぎからきているようですね。

5/7(木)は、きく

ちゃんが来てくれるよ！  
相談したいことがある人は、ぜひ来てくださいね



## 「子育てプラス」

子どもは保護者に対し、「依存と反抗」を繰り返しながら、自立に向かって発達し、成熟していきます。乳幼児期から始まって、幼児期、児童期、学童期、そして思春期、青年期と、どれほど安心して、親に、依存と反抗を繰り返してこられたかということが、その後、人間としての健全な社会的人格を成熟させていくことに、深くつながるのです。

子どもに限らず人間は、人を信じることによって、自分を信じられるようになります。自信をもって生きることは、人を信じながら生きることです。

そのためには、信じることのできる人に会わなくてはなりません。子どもが、いちばん信じたがっているのは「親」です。それも、一部の例外を除けば、「母親」です。

子どもは、母親から自分がどれほど豊かに保護されているかということで、愛され方の大きさを実感し、信頼を深めていきます。生きる力の源泉です。

だからこそ、「子どもがピンチなときこそ、親の出番」なのです。自分がピンチのときの親の行動を見ることなので、子どもは親の愛や保護の意味を問いかけているのです。

※響きあう心より



児童精神科医 佐々木 正美先生



ひろばに専用駐車場はありません。近隣の有料駐車場を御利用ください。ひろば周辺の駐車場はすべて月極駐車場ですので、絶対に駐車はしないでください。



11時30分から13時は、ランチタイム！お弁当を持ってきて皆で食べましょう♪